

# 明治大学図書館史：1886–1945

## — 年譜編 —

浮塚 利夫\* 吉田 千草† 梅田 順一‡

- 年譜は昭和 20 年 (1945) 8 月までの明治大学図書館の歩みをまとめたものであり、大学全体の動向は必要最小限にとどめ図書館の動きを中心に掲載した。
- 年譜は先行資料としての片山昭蔵編「明治大学図書館史年表」(『明治大学図書館報』別冊 4 1993 年 3 月)、同著「明治大学図書館史」増補改訂版(『明治大学図書館報』別冊 8 1996 年 3 月)、坂口雅樹「明治大学新聞に現れた図書館記事索引」(『図書の譜』第 8 号 2004 年 3 月)などをふまえ、資料蒐集及び編集作業を行った。
- 明治大学関連資料からの掲載は原則として出典名を除き、学外資料については項目の末尾に(『 』)で出典名を付した。なお昭和 2 年以降に頻発する全国高等諸学校図書館協議会関連の記事は同会報によった。
- 日付は月日の不明の場合は空白とし、必要に応じて雑誌や新聞の刊行年月日を記載した。

---

\*うきづか・としお / 図書館事務部総合サービス課長

†よしだ・ちぐさ / 図書館事務部図書館庶務課

‡うめだ・じゅんいち / 図書館事務部総合サービス課

明治 14 年 (1881)		明治法律学校開設 前年 12 月 8 日に岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の 3 名を創立者として、明治法律学校の設立届けを東京府庁に提出。校舎は麹町区 6 番 36 番地で、宮城浩蔵の屋敷であった。その後麹町区有楽町 3 丁目 1 番地の島原藩 7 万石松平主殿の上屋敷（三楽舎）を借りて開校する。
明治 18 年 (1885)	2 月	『明法雑誌』（月刊）創刊
明治 19 年 (1886)	12/11	明治法律学校文庫開設 東京府神田区南甲賀町 11 番地の新校舎内の一部に文庫を設け図書を蒐集し、講師、校友、特別生の閲覧にあてる。校舎の図面に文庫、図書閲覧室がある。
明治 20 年 (1887)	1 月	「明治法律学校規則」には図書の閲覧に関する条項はないが、塾生となって寄宿舎生活するのに新聞雑誌を除くの外稗史其他小説を縦覧することを厳禁す（第 59 条）とあるのは興味深い。
	1/5	「明治法律学校特別生規則」に「第 6 条特別生八本校二備付ノ書籍ヲ随意借覧スルコトヲ得」として規則上初めて図書の閲覧について記述されている。第 13 条には書籍借覧料は月に 30 銭とある。
明治 21 年 (1888)	8 月	文部省布告第 7 号により特別認可学校規則が定められ、法律学部、政治学部が認可される。 校長、教頭の制を設ける。校長 岸本辰雄、教頭 宮城浩蔵。
	12/8	校員会の議決事項に「1ヶ月 30 円以上二及フ書籍買入ノ金額」とあり、1ヶ月 30 円を越える書籍購入は校員会の議決事項とされる。
明治 22 年 (1889)	3/6	磯部四郎、名村泰蔵、箕作麟祥、熊野敏三等がボアソナード文庫設立へ会員募集を呼びかけ、四百余名の賛同者を得る。（『読売新聞』）
	4/20	校員決議録第 9 回会議で「購入ス可キ書籍ノ種類ハ決議ヲ以テ定メルコト」としている。
明治 23 年 (1890)	1 月	『明法雑誌』を『法政誌叢』と改題
明治 24 年 (1891)	8/16	明大文庫の濫觴 校友にして法律行政経済に関する図書を著作若しくは翻訳したときはその一部を本校へ寄贈すべしという規則を設ける。（「校友規則及び校友討論会規則」第 19 条）
明治 30 年 (1897)	9 月	一般学生に文庫を開放 従来講師、校友、特別生のみ文庫を公開していたことを改め、一般学生にも閲覧を許した。同時に図書閲覧規則を制定し、図書閲覧室を校内に設けた。
明治 32 年 (1899)	9 月	『法政誌叢』を『明治法学』と改題  文庫の移転。拡張して閲覧室の規模を拡大 暑中休暇期間に工事を終える。図書を増加し、図書閲覧所も改良を加える。特に椅子は長時間の読書に差し支えないものにする。

	10 月	『明治法学』第 3 号より寄贈書目を掲載。最初のリストは北海道区政釈義 1 冊、判例彙報第 10 巻第 9 冊、行政第 7 号、行政法協会雑誌第 3 巻第 2 号、法政新誌第 26 号、妙宗第 2 編第 10 号、大帝国第 1 巻第 9 号、法学協会雑誌第 17 巻第 10 号、革進第 6 号、校友会雑誌第 89 号、法曹記事第 94 号、法典質疑録第 29 号、法学志林第 1 号、日本弁護士協会余録第 25 号など。
明治 33 年 (1900)	9 月	図書館閲覧規則 「明治法律学校学則」第 8 条に「本校校友及ヒ学生ハ図書閲覧規則ニ從ヒ総テノ図書ヲ閲覧スルコトヲ得但授業料总納者ハ此限ニ在ラス」と記され、文庫が図書閲覧規則にもとづき運営されていたことがうかがえる。
	10/15	岸本校長文庫の拡充を表明 岸本校長の演説(修学ノ方針)のなかで文庫の拡張完備を言及し、必要な図書が欠けていれば申告してほしいことを訴える。
明治 34 年 (1901)	7/6	図書閲覧室が卒業生の宴会場に 創立 20 周年記念式並卒業証書授与式で図書閲覧室が卒業生休憩所及び宴会場となり、図書閲覧室で卒業生を饗応する。
明治 35 年 (1902)	1/15	『明治法学』恭賀新禧の頁に図書館は井本磊志、高橋進の名前がある。
	8/20	「明治法律学校学則」に図書館の項目 校友学生のため法律経済政治に関する内外古今の書籍を備え置き随意縦覧せしめ以て研学の資に供すとある。その他明治法律学校規則第 8 条、特別規則第 6 条に図書館に関する規則がある。
	10 月	明治法律学校 35 年度報告の図書館の項に「本校所属各種の図書は本校が購入したるものと世上篤志者の寄贈とによりて学生研鑽の資に供す」とあり、図書一覧表には洋書 1039 部 1014 冊、和漢書 1766 部 4298 冊の数字をあげている。
明治 36 年 (1903)		明治法律学校経費として昨年度の収入総額は 24855 円 23 銭 7 厘、支出総額は 27660 円。内訳として図書購入費は 613 円 29 銭とある。高等予科経費予算として収入 10350 円、支出 10350 円。内訳として図書購入費 360 円とある。今年度の経費予算としては支出に図書購入費 1300 円が計上されている。その他に敷地購入、校舎、寄宿舎、図書館新築費として 55000 円、図書購入費 7000 円がある。
	1/8	『明治法学』恭賀新禧の頁に図書館は井本磊志の名前がある。
	6/8	図書室近況 本校図書室は明治大学創立事務着手と同時に、亦其の準備として着々圖書の充実をはかり、法律、経済、財政等に関する新刊は勿論、従来刊行のものも、欠本または部数不足のものは、随時購入しつつあり、本年 1 月以来、部数の増加頗る著しきに至れり。なおかつて予約せしエンサイクロペジャブリタニカ(25 冊)、は客月中旬に到着し、その他同時に文献通考(24 冊)、日本社会辞彙(2 冊)、群書類従(18 冊)、古事類苑(和装 120 冊)及びマイエルのレキシコン(3 冊)等また到着したり。
	8/1	日本文庫協会主催による第 1 回図書館事務講習会が大橋図書館で開催される。明治法律学校事務員井上正金、山田幸作、田能邨梅士が受講する。
	8/24	私立明治法律学校の組織を改め、明治法律学校と改称する。

	10 月	文庫の規模を拡張し、明治大学図書館と改める 新たに図書館長を置き、岩野新平氏が就任する。主任に井上正金を任命する。
	12 月	既存の法学部、政治学部に加えて、商学部、文学部を新設。各学部に本科及び専門部を置き高等研究科の制度を設ける。
明治 37 年 (1904)	1/8	『明治法学』謹賀新年の頁に図書館は岩野新平、井上正金、松田國太郎、山田幸作、井本磊志の名前がある。
	9 月	商学部授業開始 『明治法学』を『明治学報』と改題  明治 37 年夏季に図書館新築の予定であったが時局の影響で延期する。
	11/16	明治大学を充実するため講堂及び図書館を増築する計画あり。(『読売新聞』)
明治 38 年 (1905)	1/8	『明治学報』恭賀新禧の頁に図書館は岩野新平、井上正金、黒井龍磨、岡保の名前がある。
	2/8	(事務主任) 井上正金死去する。
	4/22	昨年 12 月上旬より明治大学及び同分校、早稲田実業学校、その他諸学校や図書館に忍び入り、生徒の洋服上着及び書籍 7 千冊 (900 円相当) を盗んだ犯人が 20 日に御用となった。(『読売新聞』)
	7/10	岩野新平図書館長、商議委員になる。
	8/2	図書館員山田幸作は陸軍歩兵特務曹長として出征したが、この日陸軍少尉に任ぜられる。
明治 39 年 (1906)	1/8	『明治学報』恭賀新年の頁に図書館は岩野新平、黒井龍磨、岡保の名前がある。
	8 月	第 1 期拡張終り、図書館もすべて設備が揃う。(『読売新聞』)
	9 月	文学部授業開始
	10/23	職員会懇親の宴に岩野新平図書館長が出席する。
	11/8	改修後の図書館 10 月の開館日数 26 日。閲覧人員 1319 人。1 日平均 50 人強。
	12 月	ボアソナードが岩野図書館長に宛てた手紙で近況を報告する。
明治 40 年 (1907)	5 月	本学講師故亀山貞義氏の仏文書籍 118 冊 (経緯學堂教師亀山克巳氏より) が寄贈される。
明治 41 年 (1908)	3 月	帝国教育会書籍館にあったボアソナード文庫約 4000 余冊を本学図書館が受託 なお大正 9 年 2 月 10 日に文部省に提出した「学生定員及び明治大学基本金調査二閑スル報告書」にはボアソナード文庫 2347 冊とある。  図書館公開準備 従来講師・校友・学生等関係者のみに閲覧を許可していたが、一般公開へ向けて、規則の制定等の準備中。

		野口男三郎事件書類が主任弁護士斎藤孝治氏より図書館に寄贈される。
	4/1	図書館を一般市民に公開、ポアソナード文庫も閲覧に供した。 足立清三が図書館主任となる。
	5 月	名誉講師故名村泰蔵氏の旧蔵書 459 部 (和書 226 部、洋書 233 部) が寄贈される。
	7 月	明治 41 年度商科卒業生が高価な英文商業上の図書 12 部を寄贈する。
	8 月	図書館規則、一般市民への有料公開を謳う 29 条からなり、開館時間が平日 3 月から 10 月までは午前 8 時から午後 4 時、11 月から 2 月までは午前 9 時から午後 5 時。土曜は午後 4 時まで。第 4 条では本学関係者以外の図書を借覧せんとする者は借覧料金 3 銭を会計係に納付し閲覧証を受けるべしとある。その他に制裁、図書の寄贈及寄託などの項目がある。  図書館及標本室の項に図書館の説明あり。明治 39 年本校校舍改築に際し書庫及び標本室図書閲覧室をすべて新築し、特に閲覧室は校舎 3 階の最上部をあてる。図書の統計は原書 1311 冊、和書 10478 冊。1 月から 6 月までの来館者数は 7532 人 (1 日平均 53 人強)。 図書館閲覧室の写真が『明治学報』第 128 号に掲載される。
	9 月	『明治学報』第 130 号より定期的に図書館記事を載せる。9 月開館日数 20 日、閲覧人員 1188 人、同 1 日平均 59 人、貸附図書数 2424 冊、同 1 日平均 121 冊、館外貸出図書 8 冊、増加図書数計 84 冊 (和書 83 冊、洋書 1 冊)。
明治 42 年 (1909)	1 月	『明治学報』を『明治評論』と改題 大西種次郎が図書館主任となる。
	1/1	『明治評論』謹賀新年の頁に図書館は館長岩野新平、足立清三、岡保、來條義男の名前がある。
	11/1	岩野新平図書館長、朝鮮総督府判事に転任する。
	12 月	岩野新平図書館長辞任、掛下重次郎氏が図書館長に就任する。
明治 43 年 (1910)	1 月	『明治評論』を『学叢』と改題
	7/20	『学叢』第 7 号に明治大学学報が併載され、本学学況の梗概が記述されている。「校舎の拡張」では明治大学移転新築資金募集趣意書のあとの移転新築概算書に「5 号館、木造 3 階、74 坪 2 合 5 勺、図書館及書庫概算額 1650 円」とあり、「図書及標本」には「現在原書 12369 冊、和書 52277 冊、計 64646 冊」とある。
	12 月	新築校舎が一部竣工
明治 44 年 (1911)	2 月	明治 44 年 1 月から夜間及び休日開館を始めて日々満員の盛況との現況報告。
	2/10	日野川晟氏が図書館主任となる。
	5 月	本学法科学学生が図書館について語ったエッセイが『学叢』に掲載される。

	7 月	図書館規則によれば開館時間が平日 1 月 11 日から 6 月 30 日、9 月 1 日から 12 月 25 日は午前 8 時から午後 9 時、7 月 1 日から 8 月 10 日は午前 8 時から正午、土曜は午後 5 時まで、日曜は正午まで。平日の開館時間が延長し、午後 10 時になるのは 91 年後で 2001 年の中央図書館開館まで待たねばならない。
	10/1	新築の記念館、校舎竣工、本館 9 棟、附属建物 7 棟 明治大学校舎の 4 号館・6 号館に図書館あり。施設は 4 号館木造 2 階に 1 階、イ学生休憩室、口自習室、2 階、八図書閲覧室、二図書出納所。6 号館木造 3 階に 1 階、イ書庫、口書庫、2 階、八書庫、3 階、二書庫がある。総建坪は 4 号館 149 坪、6 号館 99 坪 5 合。 明治大学校舎図より図書館の位置がわかる。図書館閲覧室の写真も掲載。
明治 45 年 (1912)	1 月	附属明治中学校設置
大正元年	2 月	「図書館の窓より」というエッセイが『明治学報』に掲載される。
	3/5	記念館より出火 記念館より出火し、斎藤孝治、山口憲が図書を安全な場所に搬出せよと命令し、学生多数が飛ぶが如く館内に馳せ入り、8 万余冊の図書を裏庭や林に運んだとの記述が『明治学報』にあり。  記念館より出火、同講堂を全焼。ボアソナード文庫は焼失免れるが損害約十余万円。(『読売新聞』)
	4/4	校長岸本辰雄逝去
	5/26– 27	第 7 回全国図書館大会に図書館員上原義寛が出席する。(『図書館雑誌』)
	12 月	『学叢』を『明治学報』と改題
大正 4 年 (1915)	12/20	明治大学の近況 各部門の愈々隆盛なるに伴い、いっそう研究上の便宜を与えるため図書館を拡張することとなり目下増築工事中なり。(『読売新聞』)
大正 5 年 (1916)	1 月	図書館を増築する。
	7 月	主事制の採用 図書館長の次に主事を置き、講師五来欣造氏を図書館主事に任命する。
	10 月	『明治大学学報』第 1 号創刊号より昭和 6 年 12 月第 181 号の終刊まで図書館報告として、図書閲覧月報(閲覧人員 2754 人、1 日平均 162 人、貸出図書数 5113 冊、1 日平均 307 冊)、受贈書籍(第 2 号より書目書籍と改める)・新聞などの記事を書載せる。新刊紹介も毎号掲載する。
	11 月	大学の諸設備の項に図書館についての記述(内外古今の書籍を収蔵し、本学校友・学生・校外生及公衆の閲覧に供す。ボアソナード文庫もあり)。
大正 6 年 (1917)	1/15	『明治大学学報』謹賀新年の頁に図書館は館長掛下重次郎、主事五来欣造、主任上原義寛、松尾伊八郎、島村剛の名前がある。
大正 7 年 (1918)	10 月	鶴沢聡明教授が麻生太吉氏の弁護士料により本学講師ステルンベルヒ博士の蔵書約 3000 冊を購入し、大学に寄贈され、麻生文庫と名付ける。法律、経済、哲学、文学に関する資料で学会で珍重されるものが多かった。

大正 8 年 (1919)	1 月	小風文庫 校友小風玄眞穂氏より小風記念文庫資金として千円の寄附。これを基として経済、財政に関する図書購入し、小風文庫と名付ける。
	1/15	『明治大学学報』謹賀新年の頁に図書館は館長掛下重次郎、主事五来欣造、主任上原義寛、加納勇、中尾嘉八の名前がある。
大正 9 年 (1920)	1 月	大学昇格のための認可条件の一つであった図書館の充実に向けた動き。図書館拡張のため神田猿楽町から駿河台袋町にかけての 1700 坪の土地を購入して、図書館設計にとりかかる。蔵書は 1 月現在で 13746 冊。文部省への認可書類では数度にわたって追加提出され、3 月 10 日の提出書類では、蔵書は 19276 冊 (11366 部)、うち洋書は 2791 冊 (2140 部)。
	1/15	『明治大学学報』謹賀新年の頁に図書館は館長掛下重次郎、主事五来欣造、主任上原義寛、加納勇、木藤武二、中尾正嘉の名前がある。
	4/15	新大学令により大学として認可
	7/2	卒業証書授与式において掛下重次郎理事は学況報告の中で「必要な事は...図書館の充実なり。...昨年本学付近袋町より猿楽町に渡り土地を購入した...近々此处に校舎及び図書館と新築すべく目下設計中なり。」と述べる。
	10/1	職員異動。図書館勤務の加納勇、木藤武二、中尾正嘉 3 名が一身上の都合により依願退職する。
大正 10 年 (1921)	1/15	『明治大学学報』謹賀新年の頁に図書館は掛下重次郎、藤森達三、上原義寛、吉峰栄土の名前がある。
	5 月	掛下重次郎図書館長辞任 図書館長他理事全 4 名が学生騒動の末、負傷者を出したことで引責辞職する。
	9 月	図書館和漢分類表 (第 1 門哲学宗教。第 2 門文学語学。第 3 門史伝地理。第 4 門法律。第 5 門政治外交。第 6 門社会教育。第 7 門経済、財政、統計。第 8 門産業、商業。第 9 門科学、技芸。第 10 門辞書、叢書、新聞、雑誌。) に基づき、著者名目録 (アルファベット順)、書名目録 (同左) を編成する。英文の分類表もあり。
大正 11 年 (1922)	1/15	『明治大学学報』謹賀新年の頁に図書館は藤森達三、上原義寛、内田修、長谷川福三郎、桃井實英の名前がある。
	11/1	日本図書館協会会員名簿に明治大学教授兼図書館長藤森達三の名前がある。(『図書館雑誌』)
大正 12 年 (1923)	1 月	図書館を校友に開放している旨の広告 『明治大学学報』に「本学図書館ハ収蔵図書漸ク豊富豫テ一般校友ニ開放致シ居リ候間精々御利用相成度此段校友各位ニ廣告ス」とある。
	1/15	『明治大学学報』謹賀新年の頁に図書館は藤森達三、上原義寛、内田修、長谷川福三郎、本谷基一、濱野喜三郎、廣谷市藏、持永栄次、久保竹治、松川英武、濱田定吉、荻原敬次、久保田正直の名前がある。 『明治大学学報』第 76 号に明治大学図書館規則の改正案が掲載される。
	4 月	研究室及び図書館の建築が決定する。

- 9/1 関東大震災。駿河台の校舎 24 棟全館焼失  
 関東大震災で 3 階建、木造の図書館が全焼し、蔵書、原簿、目録一切の資料が消滅した。蔵書中にはボアソナード文庫、麻生文庫、小風文庫、岡田朝太郎講師より寄贈された刑法研究資料約 3000 余冊も含まれている。蔵書目録(四六版 1000 頁)が日本興業印刷会社で印刷済で、9 月 17 日発行予定であったが同社とともに灰になる。  
 大震災 焼失図書数 和漢書 41247 冊 洋書 14723 冊 計 58970 冊。  
 図書館は震災前の 7 月に記念館階上に閲覧室、階下に書庫・事務室を臨時移転し、着工に備えていた矢先の出来事だった。  
 教職員罹災者の中に図書館員 2 名(内田治・長谷川福三郎)がいる。  
 『図書館雑誌』には「58900 冊焼失 焼失せる著名文庫「ボアソナード文庫、麻生文庫、旧岡田朝太郎文庫等灰塵に帰せしは惜むべし」とある。
- 10/12 学生への図書寄贈依頼文を神田淡路町東京商工学校借用校舎内に掲示する。
- 10/15 学長富谷太郎、図書館長藤森達三の連名で教員、校友、約 800 余名と海外知己向け寄贈勧誘依頼書を発送。諸官庁、会社、銀行宛に寄贈依頼書を発送する。
- 10/23 大震災により図書を焼失したので、教員・校友に対して寄贈依頼をお願いする文書を出す。
- 11/21 仮書庫を設け、同書庫内に図書館事務室移転  
 今日までに受入た蔵書数は 6000 冊。事務室・閲覧室は記念館焼失跡に建てる計画がある。
- 12 月 図書寄贈者芳名並に書名・冊数。以後不定期であるが『明治大学学報』に掲載される。
- 12/15 震災で図書館焼失の窮状に、早稲田大学図書館が支援  
 本学学生に限り早大図書館が試験的に開放される。
- 大正 13 年 (1924) 1 月 図書館報告に近況が詳述されている。新聞縦覧の開始、図書の整理に全力を挙げている、開館は 3 月中旬開始予定など。図書の寄贈が多く海外からもある。
- 1/21 記念館焼跡にブラック閲覧室を建て新聞の閲覧を開始する。
- 2/25 図書館委員会開催。図書館の改善を図るために設ける。
- 3/3 「明大に鼻明された東大のお歴々、明大方の宣伝が図に当つて、その図書館は焼けぶとり」という見出しのもとに、欧米諸国からの寄贈書が多く届き「寄贈書だけでも焼け太りは確実で、近き将来には我が国有数の図書館として再興するであろう」という、表面だけをみた皮肉たっぷりの記事が載る。また藤森館長は諸大学や学会へ数百通の手紙を出した、それによって学校の名前も知られたが、寄贈書も果たしてどれくらいになるのかわからないというコメントを載せる。(『読売新聞』)
- 3/15 図書館委員会の設置・委員・第 1 回の出席者について報告あり。  
 尾佐竹猛氏(校友、大審院判事)が「民事訴訟法論綱」外 63 部 193 冊を寄贈する。



- 3/21 図書館に米国元大統領ウィルソン氏の最後の寄贈図書が到着する。(Wilson, Woodrow: A history of the American people)
- 4 月 図書館委員の囑託辞令(岡田朝太郎、大谷美隆、中村茂男、赤神良譲、内海弘蔵、大槻譲二、藤森達三)。  
閲覧室に池上秀畝氏の揮毫にかかる「復興の富嶽」と題する額を掲げる。西園寺公(本学創立者の一人)、徳川頼倫氏(日本図書館協会総裁)の揮毫も近く掲げられる予定。
- 4/21 閲覧室を開放し、半年ぶりに雑誌の貸出を始め、次いで法律書・経済書の貸出を開始した。
- 4/28 『駿台新報』第 27 号に分類表が掲載される。
- 5 月 図書の整理が順調に進捗し、全蔵書の閲覧が可能になった。
- 6/11 西園寺八郎氏が蔵書千冊をトラック 1 台に満載して本学図書館に寄贈する。フランス語図書が大半。
- 6/23 図書を寄贈した学生に図書館より感謝状  
明大兵庫県人会と中華校友会に学長と図書館長名で感謝状を送る。
- 7/15 『明治大学学報』第 92 号に明治大学図書館規則を掲載。34 条からなる。一般市民の利用は中止となる。
- 8/15 『明治大学学報』第 93 号に和漢書の新分類表が掲載される。
- 9 月 9 月末現在の復旧状態を示す統計表を発表。寄贈冊数(510 人 8972 冊)・大震災焼失図書冊数(和漢書 41247 冊、洋書 4871 冊)・現在図書冊数(総数 15683 冊、内訳和漢書 10812 冊、洋書 4871 冊)・焼残った図書は和書 32 冊、洋書 39 冊とある。その他に貸出部門別冊数統計・閲覧者相撲番付・和漢書貸出開始日表・閲覧人員統計など。
- 9/15 『明治大学学報』第 94 号に洋書の新分類表、和漢分類表の追加を載せる。
- 10/15 杉村虎一理事が『凱旋記念帳』外 321 冊を寄贈する。
- 11/6 図書館展覧会を 6 日、7 日に閲覧室で開催。本館復旧現状を示す。来会者芳名録には 1950 名の名前。新聞学会出品の前に立つ藤森図書館長の写真あり。「明治大学図書館展覧会写真帖」もあり。
- 12/21 図書館は館長以下、主任、司書 3 名(和書・洋書)、雇員 6 名(貸出・洋書タイピスト・定期刊行物整理・和書・洋書)、給仕 4 名(雑務・貸出係補助)からなる業務分担当。
- 大正 14 年 1 月 日本図書館協会会員名簿に館員内田修、主事藤森達三、館員山田定平とある。(『図書館雑誌』)
- (1925) 1/15 『明治大学学報』謹賀新年の頁に図書館は藤森達三、櫻井昌夫、持永榮治、榎原伝八、濱田定吉の名前がある。

大正 15 年 (1926) 昭和元年	5/23	開館延長の声 予科大会において図書館について決議される。その内容は 1、我々は向こう 5 年間で各学生 1 円づつ寄付して次の資金とす。1、図書の購入をなすこと。1、書庫の拡張すること。1、閲覧時間の延長をはかること。1、暖房装置を施すこと。1、その他適当なる設備を整えること。
	7/22	藤森達三図書館長辞任、遠藤源六理事が図書館長を兼務する。
	7/29	政治経済学部設置
	8/3	図書館長の事務引継を行う。
	10/10	午後 6 時より図書館委員会。
	10/13	10 月 13 日より午後 9 時まで開館時間を延長する。
	10/17	図書館の閲覧時間が 9 時まで延長し、有意義に利用して欲しいと櫻井図書館主任が語る。
	11/2	午後 3 時より図書館委員会。
	12/5	試験に備へる為か図書館大盛況。矢張り一番利用が多いのは予科の坊ちゃんという記事が載る。
	12/7	午後 3 時より図書館委員会。
	1/1	『明治大学学報』謹賀新年の頁に図書館は遠藤源六、櫻井昌夫、持永榮次、榎原傳八、濱田定吉の名前がある。
	1/2	英米独仏日刊紙寄贈 大蔵省から海外新聞寄贈、大内教授のきもいりで図書館の一特色となるという記事が載る。
	1/11	森本謙蔵司書として採用される。
	2/15	午後 3 時より図書館委員会。
	3/6	最近の図書館は大盛況。図書の整理も早くなり従来より感じはよくなった、今後ますます改革すると森本主事が語る。
	3/15	復興建築正面図の奥に図書館の記述あり。 本大学内において図書館委員会。
	4/10	大正 15 年度予算書に支出の部で図書館は 15500 円、前年度比 500 円増。大正 13 年度は 26380 円。
	4/21	午後 0 時 30 分より図書館委員会。
	4/25	日本図書館協会大正 14 年度総会に森本謙蔵が出席する。(『図書館雑誌』)
	5/15	校友大橋利太郎氏より 185 部、230 冊の図書が寄贈される。
	10/9	書記内藤岩雄に兼図書館勤務の辞令。
	10/11-13	第 20 回全国図書館大会に主任森本謙蔵が出席する。(『図書館雑誌』)

	10/14	消防隊の編成。第 2 搬出班 (図書館) に班長森本謙蔵、班員に内藤岩雄他 11 名の名前がある。消防隊規定第 5 条に搬出班は重要書類、図書、器物の搬出に従事するとある。
	11/6	貸出口から見た現代学生相 予科生の利用が多く、毎年試験前の 2 月、11 月末 (予科のみ) が大幅に増加する。
昭和 2 年 (1927)	2/19	ボワソナード文庫等消失記事 世界に紹介される図書館灰じんの姿として、藤澤衛彦編の英文「大震災記」に写真二葉が掲載される。
	5/6	日本図書館協会昭和 2 年度総会に森本謙蔵が出席する。(『図書館雑誌』)
	7/25	第 3 期 (記念館) 建築工事概要 1 階図書館。玄関ホール約 25 坪。事務室 4 坪 7。カタログ室 12 坪。新聞雑誌室 19 坪 5。閲覧室 113 坪 5。第 1 書庫 25 坪。図書館事務室 25 坪。階段廊下その他 32 坪 913。
	8/1	復興第 3 期建築工事 (記念館) のため閲覧室は第 42、43、44 の各講堂、図書館事務室は第 45 講堂に仮移転する。
	9/1	全国高等諸学校図書館協議会に加盟する。(以下、全国高等諸学校図書館協議会関連の記事は同会報による)
	9/14	図書館事務室予科 1 号館内へ移転する。
	10/1	森本謙蔵が『駿台新報』に読書往来と、出版界瞥見の記事を載せる。
	10/3	バラック仮閲覧室を開いて学内一般の閲覧に供す。
	11 月	新築校舎が完成したので、図書館事務室が予科 1 号館 2 階に移転した。図書閲覧室は当分従来どおり旧校舎に。
	11/7	校友規則第 5 条により商議委員会で校友 16 名を除名決定。その中に藤森達三元館長 (商議委員) が含まれる。
昭和 3 年 (1928)	1/11	書記濱田定吉庶務課へ。人事課書記齋土直矢が図書館へ異動する。
	2/22	奥村藤嗣図書館に勤務する。
	3/10	竣工した記念館 1 階を閲覧室図書館事務室にあてる。
	4/5	赤神良讓教授所蔵の珍本の焼失を懸念して、研究科が安全な研究室を提供して、保存を申し出る。赤神氏は社会学者コント所有の書籍、チャールズ・フリー氏の全集に自身の書き込みを入れた書籍などを所有。(『読売新聞』)
	4/15	日本図書館協会昭和 3 年度総会に森本謙蔵が出席する。(『図書館雑誌』)
	4/21	創立 45 周年記念式典を兼ねて復興式典を 24 日まで開催 横田学長は記念式辞の中に震災で図書館を失ったこと、新設事業について触れている。
		大学の将来について『駿台新報』に載った各教授の意見の中で赤神良讓教授は図書館の重要性を述べる。

		森本謙蔵が『駿台新報』に「理想の図書館へ」と云う記事を載せる。
	5/18	図書館委員会
	6/15	図書館委員会
	6/23	横田学長は第 4 期工事後に完全なものを建設したい旨の発言。
	7/13	図書館委員会
	8 月	主事制度を廃止する。
	9 月	雑誌の欠号の寄贈を求めるお願いの広告。
	9/21	図書館委員会
	10 月	復興第 4 期建築工事 (体育館) が決定され、予定地にあった図書館閲覧室 54 坪、図書館事務室 9 坪 66、書庫 3 坪は取り壊すことになる。
	11 月	雑誌の欠号の寄贈を求めるお願いの広告。
	12/3-7	第 22 回全国図書館大会 (京都) に司書森本謙蔵が出席する。(『図書館雑誌』)
昭和 4 年 (1929)		記念館 1 階に移転したが、昼間でも燈火を必要とするほどで環境的によくなかったので、学生達は新図書館建築促進のため学校側に働きかける。
	3/16	図書館は近頃満員続きで少し遅く行けば座するところがない云々の記事が載る。
	4/21	新分類法制定 (ABC 分類法)。一般大学図書館目録法 … ALA 目録法に東京帝大図書館目録法を加味する。
	4/28	女子部創設
	5/11	昨年度の利用統計は法律部門 (閲覧図書と書 10033 冊 洋書 49 冊) が 1 位を占め、女子部学生は日に 10 人。
	5/11-13	第 23 回全国図書館大会 (東京) に佐藤忠恕、鈴木剛男、司書森本謙蔵が出席する。(『図書館雑誌』)
	6/18	岩野新平初代図書館長が逝去する。
	6/29	図書館に入るのに学生証と図書閲覧証を取り換えて入る、従来はこんな制度はなかった不満をもらす学生。このところ頻繁に起こる盗難の予防策及び館内の喧騒を防ぐためのものという記事が載る。
	8 月	図書館建築費寄附金申込芳名及び金額が以後昭和 6 年 6 月までほぼ毎月『明治大学学報』に掲載される。
	9 月	「今秋より図書館の分類法改正される」の見出しの記事が『駿台新報』に載る。
昭和 5 年 (1930)	1/18	体育館バスケット場へ図書館の引越し。図書閲覧は 22 日から。
	1/21	図書館委員会
	3/8	景気のよい図書館、1 日 3~4 千人が利用する。

- 3/18 図書館委員会
- 5/3 野球をよそに図書館は満員、高等文官試験や追試験で余念がない。
- 5/10–12 日本図書館協会昭和4年度総会・第24回全国図書館大会(東京)に岩下篤麿、佐藤忠恕、徐基俊、鈴木剛男、持永栄次、森本謙蔵が出席。(『図書館雑誌』)
- 5/15 図書館委員会
- 5/24 私立大学図書館協会を創立し、明治、早稲田、慶應図書館当局が主唱して蔵書の融通と分類の研究をはかる。
- 6/14 私立大学図書館協会。本学森本氏規約原案作成し、28日に早大で非公式の委員会が開かれる予定。
- 6/21 仮図書館の拡張工事開始  
女子閲覧室の移転よりはじめる。  
図書購入委員会が開かれる。
- 6/26 東京私立図書館協議会創立委員会が早稲田大学図書館ホールにて開かれ、森本主任が出席、規約を起草する。
- 8/19 図書館委員会
- 9/27 東京私立大学図書館協議会(慶應大学)  
出席者は森本謙蔵。慶應・日本・立教・東洋・専修・拓殖・早稲田・法政など。図書館委員会・校友の貸出の件・研究室と図書館の連絡・販売物の整理保管法などが議論される。(『図書館雑誌』)
- 10/4 「完成を強要する本学図書館」の見出しのもとに先月27日の東京私立大学図書館協議会の記事が『駿台新報』に載る。
- 10/16 図書館委員会
- 11/1 専門部3科委員会の大会において7項目の事項を決議。その1項目に「図書館即時建築之件」を取りあげている。
- 11/7 東京帝国大学図書館参観の募集を行い、16名が参観する。
- 11/8 予科一同から図書館へ書籍の寄贈  
自治会残余金による図書購入の第1回分が『倫理学演義』など95冊。  
  
図書館の照明設備を改善  
従来の電燈に更に各机上に43燈を増加する。  
  
学生大会において11ヶ条の要求事項を決議する。その3ヶ条目に「図書館即時建設」をあげている。  
  
図書館建設の懸案を未だ実行しただけでなく、マルクスに関する書籍を読む学生を直に所轄署に密告、退学処分。これらも騒ぎの動機となっている。(『読売新聞』)
- 11/22 騒動を知らぬ平和な図書館。明るい照明装置の下に連日満員の盛況。
- 11/30 昨年4月に新分類法を制定してより鋭意再整理中。和漢書8419部11519冊、洋書4946部7095冊の整理を終える。

	12/18	「大体学生側の主張通る。明大騒動大団円」という見出しのもとに、図書館の件は起工の計画内容を来年4月18日までに明示すること、日曜日の図書閲覧が承認された。(『読売新聞』)
昭和 6 年 (1931)	1/24	試験期を迎え図書館は満員、昼頃になると満員の札がぶらさがる。
	2/22	掛下重次郎第2代図書館長が逝去する。
	4 月	明治大学図書館案内(摘要)を作成する。
	4/15	明治大学図書館事務系統図(1枚もの)を作成する。
	4/17-18	日本図書館協会総会(早稲田大学) 森本謙蔵(前主任)、持永栄次、岩下篤廣が出席する。(『図書館雑誌』)
	4/23	『駿台新報』第282号に「渴望容れられて大図書館新設の喜び」という記事とともに新図書館の予想図が掲載される。
	5/4	図書館新築に関し、参考資料収集・実地見学の為、吉田、近藤各理事、岸本監事、遠藤館長、大森技師、森本司書が中央大学、東京帝国大学の図書館を見学する。
	5/8	図書館新築に関し、参考資料収集・実地見学の為、吉田、近藤各理事、岸本監事、遠藤館長、大森技師、森本司書が早稲田大学、法政大学、慶應大学の図書館を見学する。
	5/15	図書館委員会報告
	5/23	新入生のため図書館案内を作成する。
	5/25	第1回図書館新築協議会の開催 出席者は吉田三市郎専務理事、近藤民雄理事、岸本忠雄監事、遠藤源六図書館長、大森技師、森本司書。
	6 月	従来和漢書整理を重視し、洋書整理は不振であったが、今回和漢書より奥村書記を、受入部より岩下書記に応援を依頼し、図書館創設以来の洋書整理冊の数最高記録を更新する。
	6/5	午後1時より記念館会議室で図書館新築に関する協議会を行った(設計に関して協議し、若干の修正)。
	6/13	資金集まらず図書館設立困難。当局の不誠意暴露の見出しの記事が『駿台新報』に載る。
	6/30	満50年記念として新図書館建築を決定。「創立満50年記念図書館建築資金募集の趣旨」を学長横田秀雄、創立満50年記念式典委員長木下友三郎、校友会幹事総代牧野賤男名で発表。明治大学創立満50周年記念図書館建設資金規定。明治大学創立満50周年記念図書館建設資金寄附金募集規定。明治大学創立満50周年記念図書館建設資金管理規定。明治大学創立満50周年記念図書館建設費概算書。[明治大学創立満50周年記念図書館建設資金寄附金]申込書。
	7/11	図書館建築部役員会の報告。図書館建築部部长、副部长会議を開き、趣意書・資金規定を審議する。
	8/8	図書館第1期工事請負入札。大倉土木会社と契約する。

昭和 7 年 (1932)	8/10	図書館建築工事について臨時商議委員会が開かれ承認される。工事概要 1. 位置、本大学敷地西隅 1. 構造、鉄骨鉄筋コンクリート造り 1. 階数、地下室共 4 階外二中 3 階 1 1. 坪数、建坪 125 坪 4 勾 2 戈 延坪 479 坪 3 合 8 勾 2 戈 1. 用途、閲覧室 2、その他
	9/15	図書館建築地鎮祭
	9/19	愈々着手した図書館建設工事の記事が『駿台新報』に載る。
	9/21	図書館建設部の報告(寄附金募集方法などの協議)。
	10 月	『Catalogue of foreign books』を刊行する。
	10/9- 11	第 25 回全国図書館大会(金沢)に司書森本謙蔵、書記岩下篤廣が出席。 (『図書館雑誌』)
	11/1	創立 50 周年祝賀会を举行 天皇陛下より同学図書館建設費として 1 万円が御下賜される。  創立 50 周年記念展覧会(6 日まで)に図書館からも図書、図表を出品・陳列する。出展目録あり。
	11/20	理事会は学生大会の決議、図書館建設などを拒絶した。(『朝日新聞』)
	1 月	学校当局より『駿台新報』に発行休止命令がでて休刊となる。明大また騒ぎか。(『読売新聞』)
	1/30	学生生徒の思想傾向調査報告書提出校一覧に明治大学の名前がある。
	3 月	恩賜図書館と銘打った形で一部完成 建築工事第 1 期工事。総坪数 480 坪。1 階事務室、閲覧室。2 階大閲覧室、3 階大ホールにして会議室。地下、書庫の外に大学院附属研究室。全計画の四分の一に過ぎない。第 2 期工事を予定していたが中断、完成予定図は残存。
	5/10	日本図書館協会昭和 7 年度総会に岩下篤廣(書記)、佐藤忠恕(館員)、三谷勲(館員)、森本謙蔵(主任)が出席する。(『図書館雑誌』)
	5/11- 13	第 26 回全国図書館大会(東京)の学校図書館部会で図書不明本について森本謙蔵(主任)が意見を述べる。(『図書館雑誌』) 石川浩(館員)、岩下篤廣(書記)、奥村藤嗣(館員)、佐藤忠恕(館員)、三谷勲(館員)、森本謙蔵(主任)が出席する。(『図書館雑誌』)
	5/21	森本謙蔵が「蔵書漫談」を『駿台新報』に載せる。
	5/28	新装なった図書館 開館は 6 月 1 日。学生閲覧室や教員室の写真。  『駿台新報』第 312 号に明治大学図書館案内が掲載される。
	6/1	新図書館開館
	7/9	留学生中川富彌氏がペルリ著『日本遠征記』を英国で購入、本学の蔵書に。

7/23	閉館延期 7月18日より休館の予定が学生より延期の嘆願書が出され、7月31日まで開館することになる。その後8月1日より9月まで休館の予定。
9/17	今春文科が新設され、尾佐竹猛博士が図書館委員に加わる。 故渋沢男爵より新刊図書128冊が寄贈される。 法学会有志より図書が寄贈される。
10/1	図書購入に関し一部の人達が必要とする「原稿稼ぎの参考書」が多いという風評に対し、森本司書が選書方法を説明する。
10/6	第9回全国高等諸学校図書館協議会に明治大学からは森本謙蔵が出席する。明治大学から議題が2件でいるとの議長の開会発言があった。図書館と研究室との簡易至便の連絡法、重複しないように図書を購入する方法などを議題として提出する。
10/8	図書館員の保健についての協議で森本謙蔵が明大の事例を発言。各自が自発的に西式健康法を行っている。その他の明大提出議題を森本謙蔵が説明する。
10/21	満州国立法院長来朝の歓迎会午餐会を図書館3階大会議室において行う。
10/22	満州国外交部長歓迎会を図書館3階大会議室で行う。
11/26	法科学生を中心に図書館常時開館運動起る。森本司書長は館員にも休暇が必要と述べる。
12月	芥川龍之介氏の遺書を譲り受けて「芥川文庫」をつくる話がでる。(『読売新聞』)
12/10	図書館常時開館運動が効を奏す。先ず今冬休暇中のうち12月28、29日、1月4、6～8日を開館する。
昭和8年 (1933)	1/9 恵留榮賦会誕生(図書館親睦団体で現四季会の前身)
	2/4 試験期迫り図書館満員、少し遅れると空席がなくなり学生達が悲鳴をあげる。
	2/10 図書館へ200冊の図書が寄贈される。
	2/28 賀陽宮恒憲親王台臨 新図書館より順次3階の大会議室に入り茶菓を召される。
	3/18 図書館第2期工事建設。来年迄に完成目指す。 上海在住近藤光氏(子息が本学卒)が図書館に『名賢人形集』、『芭蕉翁遺芳』外21点を寄贈する。
	4/1 図書館規則施行。第18条で外来閲覧者に対しては「大学に於て特に許可したる者」として「1月分3円若は6月分10円を納付」して閲覧を許可している。
	4/13 森本謙蔵司書長に、奥村藤嗣、石川浩、三谷勲、進昌三司書に任命。
	5/6 新しい図書館案内を考案中(森本司書他当局)という記事が『駿台新報』に掲載される。



昭和 9 年 (1934)	5/9	日本図書館協会昭和 8 年度総会に岩下篤廣(司書)、佐藤忠恕(司書)、森本謙蔵(司書長)が出席する。(『図書館雑誌』)
	5/11-13	第 26 回全国図書館大会(名古屋) 森本謙蔵(司書長)が出席する。
	5/13	『駿台新報』第 349 号に「図書館閲覧案内」を掲載。開館時間は平日 8 時～21 時。
	6/10	法科同窓会が辞典 60 冊、書見台 10 台、書架 1 台を寄贈する。
	7/8	事務細則第 10 章に図書館に関する細則がある。
	8/12	図書館だけは休暇中でも開館。平日は午前 8 時～午後 9 時。
	11/9-11	全国高等諸学校図書館協議会第 10 回大会に森本謙蔵が出席し、部会で報告する。
	3 月	『明治大学と漢図書分類目録第 1 冊 総記(昭和 8 年 12 月現在)』刊行。
	3/5	全国高等諸学校図書館協議会大会打ち合わせ(東京外大)に森本謙蔵が陪席する。
	3/25	杉並区和泉町に建築中の大学予科校舎竣工(鉄筋コンクリート 3 階建、総坪数 1400 坪余)
	5/9	日本図書館協会昭和 9 年度総会に進昌三(司書)、森本謙蔵(司書長)が出席する。(『図書館雑誌』)
	5/10-12	第 28 回全国図書館大会(東京科学博物館)に岩下篤廣(司書)、奥村藤嗣(司書)、佐藤忠恕(司書)、鈴木剛男(司書)、森本謙蔵(司書長)が出席。学校図書館部会で森本謙蔵(司書長)の提案議題①学校図書館連絡統一機関設置の件、②各図書館の現状を知りたいなどを議論する。
	5/19	立教大学図書館長スバックマン氏より明治大学の全国高等諸学校図書館協議会理事校参加を要請される。
	5/30	理事受諾。理事校用書類、会印が明治大学に送付される。
	6/3	予科図書室開室。所蔵図書数 8000 冊。収容人員 80 名。予科建物正面玄関脇の講堂をあてる。書庫 17.5 坪、閲覧室 17.5 坪。
	7/21-30	日本図書館協会図書館学講習会に内園茂が参加する。(『図書館雑誌』)
	9/13	全国高等諸学校図書館協議会。明治大学にて午後 2 時より理事会開催。森本謙蔵が出席する。
	9/21	全国高等諸学校図書館協議会。立教大学にて午後 2 時より理事会開催。森本謙蔵が出席する。
	10/2	全国高等諸学校図書館協議会。明治大学にて午後 2 時より理事会開催。森本謙蔵が出席する。
	10/5	全国高等諸学校図書館協議会。立教大学にて午後 2 時より理事会開催。森本謙蔵が出席する。

- 10/16 全国高等諸学校図書館協議会。明治大学にて午後 2 時より理事会開催。森本謙蔵が出席する。
- 10/29 森本謙蔵、立教会場にて打ち合わせ。
- 10/31 全国高等諸学校図書館協議会第 11 回大会に遠藤源六、森本謙蔵、奥村藤嗣、岩下篤廣、佐藤忠恕、鈴木剛男が出席する。
- 11/1 第 2 日。議長より報告。明治大学が「全国高等諸学校図書館協議会索引」を作成したことに謝意を表す。協議会理事校に明治大学、立教、東京外大、奈良女子高等師範、天理など。
- 11/2 第 3 日。会名変更に関する問題研究の委員に明治大学が依頼される。開会式式辞は遠藤源六図書館長が述べる。
- 11/6 全国高等諸学校図書館協議会。東京外大にて理事会開催。森本謙蔵が出席する。
- 12/7 全国高等諸学校図書館協議会。明治大学にて午後 2 時より理事会開催。森本謙蔵が出席する。
- 12/13 山本有三氏が奨学資金として 2 千円を寄付。(『読売新聞』)
- 12/15 文部大臣あてに理事校連名で全国高等諸学校図書館協議会を文部省名で招集してほしい旨の請願書を提出する。
- 昭和 10 年  
(1935) 明大文庫創設
- 明治大学予科図書室閲覧案内、附図書検索法を刊行する。
- 1 月 謹賀新年の頁に図書館長遠藤源六の名がある。(『図書館雑誌』)
- 2/15 全国高等諸学校図書館協議会。森本謙蔵、東京外大を訪ね、次回理事校の件を諮る。
- 5 月 『明治大学図書館報』菊判刊行(～昭和 11 年 3 月まで刊行)  
新着の和漢洋図書雑誌の目録、備付新聞一覧、受入統計、蔵書統計、利用統計や各種の案内を載せる。
- 5/10–  
11 日本図書館協会昭和 10 年度総会に岩下篤廣(司書)、森本謙蔵(司書長)、鈴木剛男(司書)が出席する。(『図書館雑誌』)
- 10 月 『明治大学図書館報』9・10 月刊行に鵜沢総明殿寄贈図書目録、佐伯好郎殿寄贈図書目録が掲載される。
- 10/30 全国高等諸学校図書館協議会。大谷大学にて理事会開催。森本謙蔵が出席する。
- 10/31 全国高等諸学校図書館協議会第 12 回大会。図書切抜き、閲覧者自携品紛失防止策、卒業生閲覧殺到緩和策を議題として提出。明治大学からは、森本謙蔵、奥村藤嗣が出席。大学部会に森本と奥村が出席し、予算、人事、夏休みの開館、閲覧事故、校友問題について発言する。協議会理事校に明治大学、立教、東京外大、大谷、龍谷、同志社。学校図書館職制制定委員に森本謙蔵が就任する。

昭和 11 年  
(1936)

冊子体の分類表、明治大学図書館閲覧案内、附図書検索法を刊行する。

『朝鮮文庫設置朝鮮関係書籍目録』を刊行する。

1 月 謹賀新年の頁に図書館長遠藤源六の名がある。(『図書館雑誌』)

3 月 『備付逐次刊行物一覧』(3 月末現在)を刊行する。

5/11 日本図書館協会昭和 11 年度総会。進昌三(司書)、森本謙蔵(司書長)が出席する。(『図書館雑誌』)

5/12- 第 30 回全国図書館大会(東京科学博物館)に岩下篤廣(司書)、奥村藤嗣  
14 (司書)、進昌三(司書)、鈴木剛男(司書)、中川亮(司書)、森本謙蔵(司書長)が出席する。(『図書館雑誌』)  
総会で進昌三が図書館職員の待遇改善で発言。2 日目は図書館協会の拡大強化で岩下篤廣、進昌三が発言。部会でも多数発言する。

5/27 東京私立大学図書館第 5 回協議会(立教大学)に森本謙蔵が出席する。

10/8 全国高等諸学校図書館協議会第 13 回大会に森本謙蔵が出席。「副出図書本位の叢書内容目録の件」、「学校図書館年鑑刊行の件」、「会誌を季刊等一ヶ年数回に刊行の件」の 3 件を提出。文部省諮問に対する研究的意見を発表し、資料を配布する。

10/9 大学部会に森本謙蔵が出席。学生への読書指導、図書館人事、曝書、投書箱等について発言する。  
森本謙蔵が図書館職制制定に関する委員会委員になる。  
会務報告で明治大学図書館「和漢分類表」並大要索引を出席会員に配布する。

11/26 東京私立大学図書館第 6 回協議会(國學院大学)に森本謙蔵が出席する。明治は幹事校となる。

11/31 『駿台新報』第 277 号に図書館・教室・校庭の写真が掲載される。

12 月 故富谷太郎元学長の旧蔵書約 1000 冊が寄贈される。

昭和 12 年  
(1937)

1 月 故井上正一法学博士寄贈図書目録(洋書)を作成する。

3/5 図書館 3 階で明大在郷軍人倶楽部主宰の「陸軍記念日祝賀戦場座談会」が催された。(『朝日新聞』)

5/14 東京私立大学図書館第 7 回協議会(早稲田大学)に森本謙蔵、岩下篤廣が出席する。(『図書館雑誌』)

5/22 韓国文庫創設

5/29 日本図書館協会昭和 12 年度総会に鈴木剛男(司書)、進昌三(司書)、森本謙蔵(司書長)が出席。学校図書館部会では全員が発言する。(『図書館雑誌』)

7 月 進昌三「学校図書館に於ける読書案内の実際」を『図書館雑誌』に発表する。

10/23 戦時下における勉学のシーズンに、昨年の 9 月と比べて 350 名が増加する。

昭和 13 年 (1938)	2/12	試験期となり、例年どおり臨時自習室として校友専用に教職員食堂 20 席、卒業生専用に商業学校 3 階 30 号教室 64 席を設ける。学生用の閲覧席は 365 席。
	4/1	私立大学図書館協会監事校となる。
	7/17	夏期休暇中 (8 月 1 日から 14 日まで) の図書館を開館する。従来この時期は館内の破損個所の修理と曝書を行っていた。  全国高等諸学校図書館協議会第 14 回大会に森本謙蔵が出席する。「時局に鑑み図書館国策樹立の件」諮問案に対する答申案の作成委員に森本謙蔵らが指名委託される。
	7/18	文部省諮問答申案委員会で森本謙蔵委員が答申案の起草を完了する。図書館職制制定に関する委員会に明治大学がメンバーとなっており、森本謙蔵が熱心に活動。
	10/17	図書館の利用者増加、時節がらか兵書の貸出も見受けられると森本司書長の談が『駿台新報』に載る。
昭和 14 年 (1939)	3/9	同校関係の全戦没英霊を祀る忠霊殿がこの程出来上がったので、陸軍記念祝賀会を同校図書館 3 階会議室で行った。(『朝日新聞』)
	4/1	興亜科専門部新設
	7/12	戦争文学書籍を収集、亡き友の母校明治大学に寄贈。集められた書籍は約 60 冊。(『読売新聞』) 明大側ではこの友情の書籍を礎として今後更に事変関係の書籍を収集。忠霊文庫を設けて記念する。(『朝日新聞』)
	8/3	全国高等諸学校図書館協議会第 15 回大会に森本謙蔵、鈴木剛男 (予科) が出席する。
	8/4	第 2 日総会 (午前) 議題審議。議題第 4 では文部省教学局推薦図書を取り扱いについて発言。議題第 5 では全国学校図書館協議会創立案を森本謙蔵が提出するも、反対が多く決議せず保留となる。 第 2 日部会 (午後) 大学部会は森本謙蔵が座長。内容は夏休みの開館状況、専門書の閲覧状況、図書館人事 (永代館長制)、研究室の図書重複、雑誌の貸出について討議する。 第 2 日部会 (午後) 女子・高校・外語部会には明治大学予科から鈴木剛男が出席する。
		第 3 日総会議題審議 議題第 1 「時局に鑑み図書館国策樹立の件」を提出し、了承される。全文が『全国高等諸学校図書館協議会会報』第 15 号に掲載。 森本謙蔵が総会で大学部会報告をする。
		予科図書館工事着手。建設請負者 通山組、設計 木下事務所建坪 $2650.89m^2$ 書庫 $443.85m^2$ 収容図書 1 万 3000 冊。
	10/17	中田敬義氏より洋書 360 冊が寄贈される。
	10/18	予科学生より本学に寄付の目的を以て構内に建設予定であった予科図書館が竣工する。予科図書館の図書分類は「いろは分類法」を採用する。

		予科図書館、本学への献納式 小林予科長が予科生一同の資金により長年永年の理想であった図書館設立されたことは喜ばしいと挨拶する。
昭和 15 年 (1940)	4/1	私立大学図書館協会監事校となる。
	4/26	故神宮徳壽教授の旧蔵書を予科に譲り受け、予科図書館内教員研究室に備付けることにし、整理に着手する。
	7 月	文部省教学局より禁止図書目録の図付がくる。
	7/13	西神田警察署より左翼出版物の提供を求められる。
	10/27	予科図書館にて明治大学展覧会 (小説之部) 開催。同展覧会目録を刊行する。
	11/18	近世文化展開催 (～21 日)。同展覧会陳列目録を刊行する。
昭和 16 年 (1941)	4 月	野田孝明教授が図書館長に就任する。
	6 月	明治大学図書館新着図書 (6 月号) より『明治大学図書館増加書目』と改題。(～昭和 17 年 12 月号まで継続刊行)
	10/25- 27	全国高等諸学校図書館協議会第 16 回大会に森本謙蔵が出席する。
昭和 17 年 (1942)	11/10- 13	予科図書館にて古事記展開催。江戸時代刊本の古事記数種、宣長の古事記傳、その他 300 余冊を展示する。
	11/17	『明治大学新聞』第 509 号より、同新聞調査部として図書館で購入した新刊案内が掲載される。
	11/24- 25	本館図書館 3 階にて古事記展を開催する。
昭和 18 年 (1943)		予科図書館案内小型版 (44 頁) を刊行する。
	4/20	『古事記参考文献抄』を刊行する。
	7/13- 17	予科図書館にて論語展覧会開催。藤野岩友教授の分類により解題書目、索引字書、名物地理、考異損佚、本文註解、類編、国譯思想、翻譯、雜誌、事歴の順に約 1000 冊を展示する。同展覧会出品目録を刊行する。
昭和 19 年 (1944)	1 月	水口吉蔵教授より蔵書が寄贈される。和漢書 227 部 673 冊、洋書 288 部 827 冊。
		予科図書館、陸軍陸地測量部に接收される。
	3/16	女子部が明治女子専門学校となる。
	3/31	司書長森本謙蔵が退職する。
	4 月	明治工業専門学校創設
	4/1	奥村藤嗣が司書長に任命される。
昭和 20 年 (1945)	5/1	牛車にて八幡山グラウンドに和本類、漢籍の図書を移転する (～3 日間)。
	5/3	山梨県韮崎下溝に貴重書疎開～5 月 5 日の 2 回にわけて送る。